

●会誌 52 号への寄稿有難うございました。約 160 頁になりそうです。

2022 年度の総会も無事に成功し、総会に合わせて発行を行ってきた機関紙は 50 号の発行からこの伝統が崩れ始めました。年度の始末や年度初め報告や申請業務が増えてと人員不足が重なって定期発行の遅れになってきています。52 号も 1 か月遅れになってしまいました。しかし、これまでにない新入会員さんからの協力があってようやく原稿が集まり始めました。今集中して校正に取り掛かっています。発行予定を 20 日にと頑張っています。今もう少しご迷惑をおかけいたしますことになります。

●レンリソウの観察会に参加の申し込み届きました。当日は少雨決行で行います。

今木津川の左岸の堤防は花盛りです。山城大橋から近鉄鉄橋迄のところで堤防の補強工事が行われて芝生が張り付けられた場所ではアカツメグサが一斉に花をつけて一面が絨毯のように花盛りです一度ご覧になってほしいものです。またこれまで堤防法面では見かけられませんでしたナヨクサフジが小群落で競って咲き始めました。一方未だレンリソウは押されて少なくなっているようです。やはりカラシナはこれから数日のうちにほこるのではないのでしょうか。カラスムギはやたら際立っています。

今年は木津川生育稀少種維持のための除草作業にいち早く取り組んでいただき、春に刈り取っておくべき場所の全てにおいて作業を終わらせていただきました。まだこれから生い茂る前の作業なのでハンマーモアのスピードを上げる事が出来て苦労が少なかったということでした。頑張っていたいただいた森島さん有田さん太田さん大変ご苦労様でした。

●功労者表彰者から喜びの声とお礼がとどきました

去る 29 日の総会の前に 25 年記念功労者表彰式を行いました。出席いただけなかった皆さんにも表彰状をお渡しいたしましたところ、喜びの電話が多くの方から届きました。

●青葉の集いの展示物 作られる 乞う ご期待

次の日曜日（15 日）京田辺市中央公民館で開催される「青葉の集い」カラオケ好きのサークルなど約 300 人が集ってこられる会場周囲に文化協会に所属しているサークルの紹介展示がされます。里山の会に呼びかけがありましたので、展示発表させていただく内容を検討した結果、①農園活動の一年②今年もやりますカヌー体験③中聖牛の設置と 5 年の取組④楽しい野草を食する会⑤普賢寺小学校への総合学習支援⑥遊ぼう学ぼう魚とり⑦桜満開親子花見乗船体験などの取組を発表します。若葉が光る花見山公園のお出かけいただいた帰りにお立ち寄りください。午前 10 時から会場で 16 時ごろまで展示されます

●事務所の雰囲気 一変しました。 日程揭示出来る 有田さんが工夫

プレハブの仮設事務所に移動して事務処理は辛うじて進められていますが、一か月の予定がわかる揭示版がなく不便でした。予定が一目でわかるようにするために有田さんか工夫をしていただきました。南側の窓から強烈な日差しが差し込むのでカーテンもつけて事務所の雰囲気がガラッと変化して、狭いけれど事務所らしい雰囲気になりました。パソコンも揃いましたし印刷機も稼働できました。今、会誌 52 号の編集に集中しています。

●木津川事務所から挨拶に来訪 4 月の移動で 工事第二係長 西川伸一郎さん 里山の会との担当いただく方 工事監督支援業務現場技術員 二村岳雄さん 草刈り業務でお世話になります。二名の方が 5 月 9 日就任のご挨拶に来所されました。有田理事と山村が対応しました。

これまで木津川出張所とは毎年定期的に 1 年間の活動にわたって要望書を提出しながら打合せを

レンリソウ観察会に参加者募集

里山の会は 2007 年に木津川堤防で 40 年ほどレンリソウは京都府下や近畿地方でまったく生育しているという情報もなく絶滅していたと考えられていました。まさにこの花が鈴木由紀枝さん（里山の会）が木津川で発見されました。それで絶滅種から絶滅寸前種として京都府のレッドデータが書き換えられたのです。それ以降里山会は保全と維持に力を入れています。今では絶滅寸前種 8 種類などの保全管理をしています。その当時から花が高くなり始めてきていて開花が早まっているように思います。①櫻井公園にはマツバウンランが風にそよぐの姿も見られます。田んぼでは田植えの準備が始まり、早苗の用土が進み始めています。エンドウの手づから育てられています。ツツジも咲き始めています。田圃のあぜ道を訪ね木津川まで歩いてみませんか。ご加をお待ちしています。

□□5月14日（土）午前9時30分①近鉄新田辺駅西口広場②出発～時間厳守で出発□□

農道を北に花を探しながら木津川堤防へ③山城大橋まで散歩④11:30解散

□□参加費無料□申し込み現地西口集合地

新田辺から木津川の堤防まで散歩しながら
「あの花にあい」と尋ねてみましょう
道端にはいろいろの花が迎え出てくれますよ□□

ガイドの内容
木津川左岸の内排水問題①防壁川の秘密
木津川は天井川②木津川の河床低下
城陽市の山影の採取地と新名神高速道路
天然記念物のイタセンバラの生育地（ワンド）
山城大橋は木津川で最後の渡し船があったところ
神矢橋門と排水機場③橋門管理と防壁川④改良区と国交省が管理
片町線のレールと木津川の堤防の高さが同じ



主催□NPO やましろ里山の会□事務所□京田辺市田辺2-15□0774-64-4183
メール□shibuhwa257@bb.ne.jp

行ってきました。5月中旬に予定していますので。会員の皆さん社員の皆さんのご要望をまとめて届けてゆきたいので、早急に要望事項をメール等でお知らせください。お待ちしております。

●5・6月の予定 あくまで予定ですので、予告なしに変更があります 最新の週刊ニュースを確認下さい

5月14日レンリソウ観察会 里山農園オクラ植え	5月15日青葉の集い
5月20日会誌52号印刷発刊 送付 会費請求書送付	5月31日里山農園 幼虫探し

6月04日竹門先生カスミ池事前調査	6月07日里山農園 小豆を植える
6月10日里山農園 飛行機とばし	6月11日城陽教育委員会 魚とり指導
6月12日里山農園 丸山草刈り	6月14日里山農園 カエル探し
6月18日ホテルの夕べ里山音楽会	6月19日自然環境保全京都ネットワーク 「カスミ池周囲環境調査」
6月24日木津川希少種植生調査管理業務 植生調査	6月25日里山農園 ドングリ植樹
	6月30日里山農園 植樹祭

●京都府交響プロジェクト申請（2022年度）に関して事務所の形態と里山の会の継続活動について

1. 事務所問題 移転先を検討してきたが適当な物件案無し 80歳近い老人に契約できる所はない
2. 会継続問題 現在高齢者集団だ 先の見通しは体力の衰えから5年が限度だろう
3. 申請にあたって 300万円から無理とにならない程度に減額申請が適当ではないか
4. 報告書作成が大仕事だから活動資金があるから申請しないで休憩してはどうか
5. 事務機械の保証期間を超えているものばかりである。新型機械への更新時期に来ている。万一使用できなくなればどうするのか。等の課題が出されました

●事務所の移転と継続活動について

1. 事務所が無くなると 国交省の木津川希少種植生調査管理業務の受注条件に連絡先の明確化があり、喪失となれば、受注不可能になる。安定収入は途絶えることになる
2. 事務機をシンプルにすればすべての報告書や記録証シオリやチラシの経費が必要となりアヴィニールなどとの取引が消滅する。会誌制作は以前のように1頁100円の経費が必要1ペーシ100円100枚400部印刷の場合400円となり200ペーシ印刷の場合×400円=8万円の印刷経費となり、年2回の発行では160,000円である。この場合20人の製本人が必要で他に編集経費として期間と人手が不可欠になります。
4. 現在活躍中の年齢は80歳を超える方が中心を担っているが、このような状態は長続きは無理で、その後の継続に関しての見通しはどのように考えるのか、などの意見がこれまで通りくりかえされました。
5. 旧事務所の解体が始まってきているので、結論を早く出さなければならぬ切羽詰まった時点にある。
6. 現役の老齢化も進んでいるが、若手の成長も見え始めてきていることも大事である。この芽も大切にしよう
7. 里山の会は2021年度末に閉鎖の機運が大きかったが、4名の理事が継続の意思を表明され、再度役員編成を組みなおし2021年度を取り組んだ経過がある。その上に新たに事務所解体の計画があり、新事務所探しを重ねてきたが、適当なところが見つからず、今日に至って会の存続か、解散かに関わって事務所問題が加わって複雑な課題に直面しているのである。
8. 従って、副理事長の見解は、建て替えの家主にご迷惑を承知の上これまで通り使用させていただけないか。との意見があった。
9. 理事の中から、最後の結論を出す時間が必要だとの発言もあり、最終結論に至りませんでした。
10. 最後に常務理事から、結論は急がなければならない。随って現在の心境は、建て替えの上2階を使用し、家賃の値上げ（5万円）とし、5年分を先払いとしてはどうかとの提案がされた。出席者からの発言はなかった。

（5月11日事務局会の経過報告）